

資料

資料1 評価委員会説明資料

資料2 公衆衛生学会シンポジウム資料

- ・地域基盤型IPE（専門職連携教育）による連携力の育成 趣旨説明
大嶋繁（城西大学） 萱場一則（埼玉県立大学）
- ・彩の国発の地域基盤型IPE 4大学連携力育成プロジェクトの目指すもの
新井利民（埼玉県立大学） 田口孝行（埼玉県立大学）
大部令絵（埼玉県立大学）
- ・地域ニーズに応える薬剤師の育成
細谷治（城西大学）
- ・保健医療福祉分野のIPEに建築系学生が参画する意義と可能性
勝木祐仁（日本工業大学）
- ・地域基盤型の専門職連携教育と公衆衛生の人材育成
柴崎智美（埼玉医科大学）

資料3 学会発表演題一覧

資料4 学会発表・講演会・シンポジウム抄録

彩の国連携力育成プロジェクト(4大学連携教育事業)
評価委員会説明(平成27年2月16日)

彩の国大学連携による住民の暮らしを支える 連携力の高い専門職育成 【彩の国連携力育成プロジェクト】

代表校プロジェクトリーダー
田口孝行(埼玉県立大学)

<本プロジェクトの位置づけ>

- 文部科学省の平成24年度新規事業
「大学間連携共同教育推進事業」
として採択
- 大学改革推進等補助金(大学改革推進事業)

1

「彩の国連携力育成プロジェクト」の目的

少子高齢化の進行に伴う在宅医療・介護の需要拡大など、複雑化・多様化する住民ニーズに対応するため、「地域住民の暮らしの課題を、多職種連携により発見・解決できる人材」を、埼玉県立大学・埼玉医科大学・城西大学・日本工業大学の4大学が連携協働して育成しようとする取り組み

4大学の教職員・学生、埼玉県(ステークホルダー)、埼玉県民、保健医療福祉関係者と協力しながら、「連携力の高い専門職養成」を行う

4大学学長・埼玉県保健医療部長による協定書の調印

2

「彩の国連携力育成プロジェクト」の目的 プロジェクトで育成する能力

多職種・多分野と連携し、俯瞰的視野を持って、地域住民の暮らしの課題を解決する

連携による課題解決力
情報、問題、目標の共有
パートナーシップ
連携する力
コミュニケーション
自己表現、相互理解
多職種を理解する力
各学科で育成する
専門的知識・技術
各分野の専門力

3

「彩の国連携力育成プロジェクト」 が目指す人材

「地域住民の暮らしの課題を、多職種連携により発見・解決できる人材」(連携力の高い専門職養成)

- ① 利用者・集団・地域の理解と課題解決
- ② 他領域の相互理解
- ③ チーム形成
- ④ 振り返り(リフレクション)

(埼玉県立大学 IPW実習の目標)

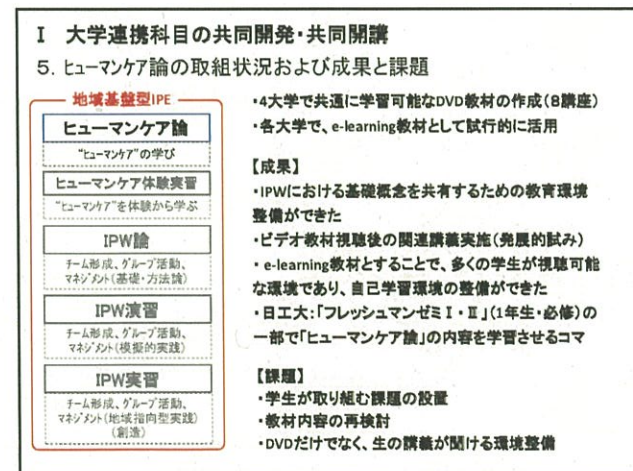
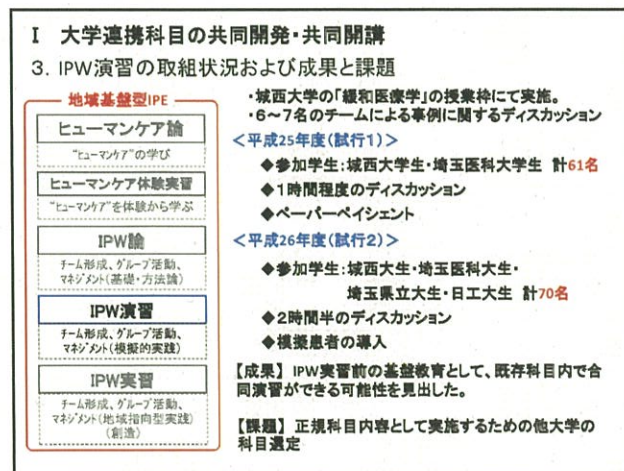
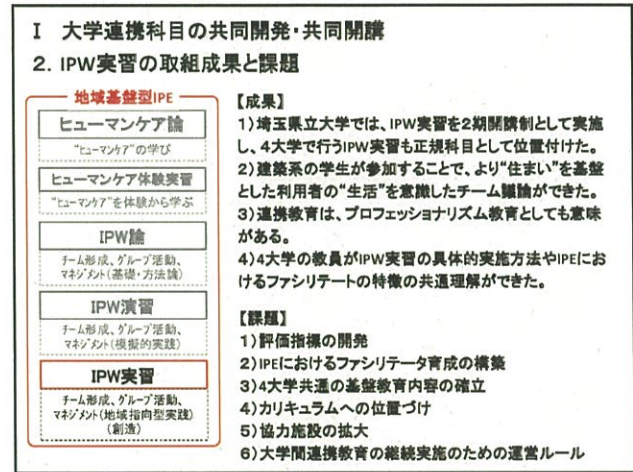
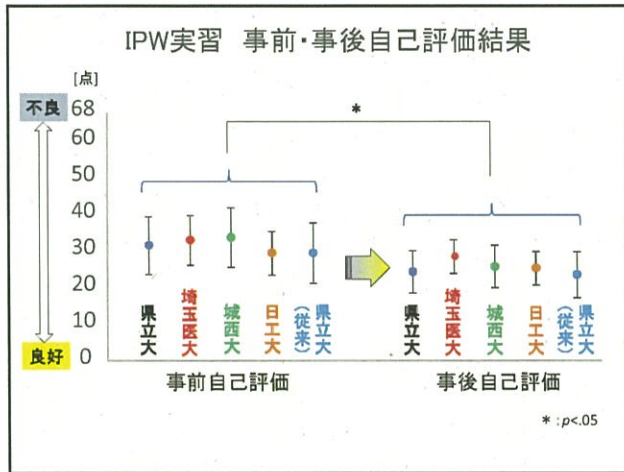
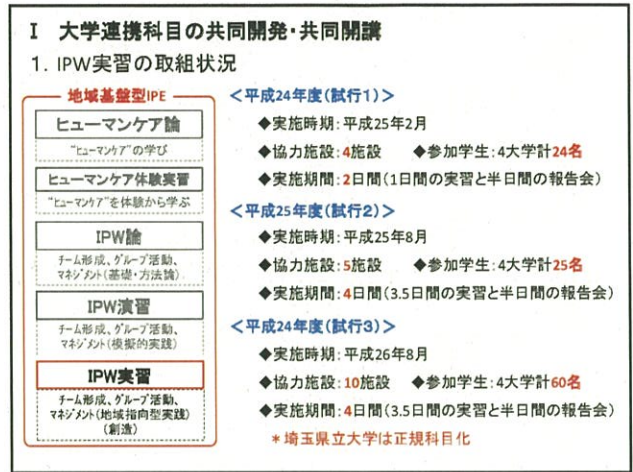
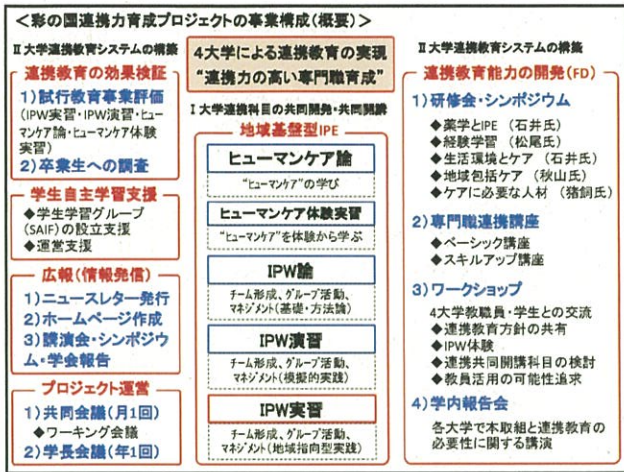
*チームとしての活動(他職種・他者との連携)を実践するうえで、最低限身に付けておくべき知識・技術の修得、チーム形成プロセスの体験

4

本取組を実施するうえでの課題

- ①4大学所在地の地理的問題:
埼玉県立大学・日本工業大学は埼玉県東部
埼玉医科大学・城西大学の埼玉県西部
- ②施設、教員等の資源・パワーの問題:
IPE履修可能性(1学年:計1080人)
県大450人、医大130人、城西大450人、日工大50人

- ③IPE/IPW、IPW実習に関する4大学教員間の共通理解、大学内教員間の共通理解を深める必要性。
(ア)地域基盤型IPE/IPWの学部教育の必要性について
(イ)IPW実習の成果について
(ウ)正規カリキュラム導入の必要性について
- ④大学間連携事業運営方法(事務、施設調整、謝金等のルール)
- ⑤実習期間等の4大学での日程調整と、埼玉県立大学、埼玉医科大学の正規カリキュラムとの関係。



I 大学連携科目の共同開発・共同開講
7. ヒューマンケア体験実習の取組状況および成果と課題

<p>地域基盤型IPE</p> <p>ヒューマンケア論 「ヒューマンケア」の学び</p> <p>ヒューマンケア体験実習 「ヒューマンケア」を体験から学ぶ</p> <p>IPW論 チーム形成、グループ活動、マネジメント(基礎・方法論)</p> <p>IPW演習 チーム形成、グループ活動、マネジメント(模擬的実践)</p> <p>IPW実習 チーム形成、グループ活動、マネジメント(地域指向型実践) (創造)</p>	<p>・日工大の学生5名程度のチームによる施設での体験実習(コミュニケーション、ひとの生活・歴史を知る)</p> <p><平成25年度(試行1)></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆参加学生:日工大生4名 ◆介護老人保健施設 プルミエール ◆1日間の実習と半日間のリフレクション <p><平成26年度(試行2)></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆参加学生:日工大生5名 ◆杜の家やしお ◆平成27年1月21日に実施予定(1日間の実習と半日間のリフレクション) <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆日工大の学生にとっても、ヒューマンケアを学ぶための教育プログラムとして有意義であり有効 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆埼玉県立大学との合同実施が可能なかの検討
---	---

I 大学連携科目の共同開発・共同開講
9. IPW論の取組状況と今後の方針

<p>地域基盤型IPE</p> <p>ヒューマンケア論 「ヒューマンケア」の学び</p> <p>ヒューマンケア体験実習 「ヒューマンケア」を体験から学ぶ</p> <p>IPW論 チーム形成、グループ活動、マネジメント(基礎・方法論)</p> <p>IPW演習 チーム形成、グループ活動、マネジメント(模擬的実践)</p> <p>IPW実習 チーム形成、グループ活動、マネジメント(地域指向型実践) (創造)</p>	<p>・「IPW論」は埼玉県立大学でも平成25年度から開講された科目であり、現在まで共同開講に向けた具体的な取り組みは進んでいない。</p> <p>【今後の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆IPW実習の試行において、以前にIPWの方法論を学んでおくことが重要であることがわかった。 ◆DVD教材およびテキスト教材など、4大学の学生が共通に学べるツールの作成を検討中 ◆教材を使用して、他大学の教員が生徒の講義ができるような能力開発が必要
---	--

II 彩の国大学連携による教育システムの構築
(効果検証・FD・学生支援・情報発信・運営)
1 学際的共同研究

- 埼玉県立大学

平成21～24年度卒業生に対して調査。有効発送数1,401のうち、有効回答254(回答率18.13%)。IP演習は**約75%**の卒業生が何らかの「役に立っている」と回答。
- 埼玉医科大学

平成23～24年度卒業生188に対して調査。有効回答16。うちIP演習受講者は8名であり、**パートナーシップ、医師患者関係構築力**がそれぞれ**高い**傾向。

埼玉県立大学卒業生への調査結果(補足)

<肯定的回答(75%)の自由記述より>

- ◆他専門職の理解(尊重)
- ◆多面的な患者を理解
- ◆他職種との情報交換・情報共有・関係構築・相談が円滑(他職種との壁の意識がない)

→ **連携に関する姿勢・態度**

- ◆他専門職種(機関)との連携・協力実践場面への円滑な適応

→ **連携する行動**

<否定的回答(30%)の自由記述より>

- ◆IP演習での学習なし
- ◆IP演習方法と現場の連携方法の不一致
- ◆連携環境や機会がない、または不備

→ “学生個人による学習格差への補充支援”

→ “学部教育の実践現場への応用力の補充支援”

→ “実践現場のIPWに関する認識や環境整備向上に寄与”

埼玉医科大学卒業生への調査結果(補足)

<連携実践>

- ◆IP演習での気づきを実践(雰囲気づくり、連携実践)
- ◆学生時代の体験があったからこそ、**現在の連携がスムーズに**いっていると感じる
- ◆患者(利用者)中心の医療、ケアを実践するために、**他の職種**の力を借りることの**重要性の理解**
- ◆他の専門性を知り、**対等な関係を築くための障壁を低く**している

<プロフェッショナリズムに寄与>

- ◆**医師患者関係構築能力**が高く、**患者中心の思考や姿勢**が養われている

II 彩の国大学連携による教育システムの構築
2 学生の主体的な合同学習への支援

- 埼玉医科大学4名、埼玉県立大学3名、日本工業大学4名、城西大学2名、自治医科大学1名の合計**14名**の学習グループが形成
- **10数回**のミーティング、**3回**の病院や現場見学、**38名**を集めた共同学習イベントなどを行う(平成25年度)
- **2回**の懇談会・勉強会を開催(平成26年度)

II 彩の国大学連携による教育システムの構築 3 広報及び研修

①国内外への発信

- 国内外の学会学術集会や研究会報告：**8回**
医学教育学会、日本薬学会、EIPEN、ATBH VII、日本保健医療福祉連携教育学会、日本福祉心理学会ほか
- 招待講演・シンポジウムの参加：**10回**
千葉大学、全日本病院学会、日本臨床医療福祉学会、日本公衆衛生学会、大阪府立大学ほか
- Webサイト訪問者数(2013.4～2015.2.10)：**13,881人**(新規)
6,025人(リピーター)
- Facebook「いいね」：**113人**(2015.2.10)
- Twitter フォロワー数：**234人**(2015.2.10)

II 彩の国大学連携による教育システムの構築 3 広報及び研修

②教職員間の相互理解の推進

- 教職員・学生によるワークショップ
4回実施・169人が参加
- 学内報告会を開催
埼玉県立大学：**33名**参加
城西大学：**33名**参加
日本工業大学：**102名**参加

II 彩の国大学連携による教育システムの構築 3 広報及び研修

③取組成果の地域還元

- 報告会・シンポジウム：**5回開催・640名**参加
 - 薬学とIPE (千葉大学大学院薬学研究院 石井伊都子教授)
 - 経験学習 (現 北海道大学大学院経済学研究科 松尾睦教授)
 - 生活環境とケア (東北工業大学 石井敏教授)
 - 地域包括ケア (暮らしの保健室室長 秋山正子氏)
 - ケアに必要な人材 (一橋大学大学院社会学研究科 猪飼周平教授)

II 彩の国大学連携による教育システムの構築 4 大学間連携体制(運営)

- 彩の国大学連携学長会議を開催
平成24～26年度各1回(合計**3回**)
- 大学連携推進会議の開催
 - 平成24年度(10～3月) **6回**開催 延べ **88名**参加
 - 平成25年度(4～3月) **12回**開催 延べ **160名**参加
 - 平成26年度(4～1月) **13回**開催(うち臨時3回) 延べ **213名**参加
- 各大学でプロジェクトチームを設置し事業を運営
参加教職員 埼玉県立大学：**18名** 埼玉医科大学：**20名**
(平成26年度) 城西大学：**22名** 日本工業大学：**8名**

<大学間連携によるIPE実施における課題>

- ①地域基盤型IPEのより客観的な評価指標の開発と、更なる教育効果の探索。
- ②ファシリテーターのFDを行う必要性：共通の学びを担保するファシリテーターの質を均てん化(『大学間連携IPW実習 ファシリテータ ガイド(仮)』の作成など)
- ③IPW実習を実施する上で必要とされる共通の準備教育(県立大学における『ヒューマンケア論』『IPW論』『IPW演習』)の内容の明示と各大学における修得方法の検討。各領域に特徴的な教育内容、カリキュラム全体における位置づけ。

- ④地域基盤型IPE/IPWの教育プログラム確立のための研究。
- ⑤参加学生増員に対応できる協力施設の確保・拡大。
- ⑥大学間連携事業の継続的運営：事務、財務、施設調整、謝金等のルール的一般化。
- ⑦埼玉医科大学、城西大学、日本工業大学の正規科目化(または専門特別科目化)の道程。
- ⑧4大学正規科目化(または専門特別科目化)の際の実習時期、履修者数等の再検討。
- ⑨大学間連携IPW実習の継続実施に向けて本実習の実施拠点となる部署の検討